



## 今週のポイント

いちよしアセットマネジメント

## 金利低下を背景に株式市場は反発へと転じる

先週の株式市場は日米ともに、それぞれの金融政策決定(31日:日銀金融政策決定会合、1日:FOMC)をこなしながら主要株価指数が持ち直しました。米国においては10年債利回りが、一時4.48%まで低下しました(10月23日:5.005%)。金利低下の背景は、①ISM製造業・非製造業景況感指数、雇用統計など景気指標が下振れたこと。②10-12月の国債発行計画が事前に警戒されたほど膨らまなかったこと。③FOMCにおいてパウエル議長がハト派的コミュニケーションに徹したことです。金利の低下を受けて米株式市場は急反発、NYダウ工業株30種平均は27日から5.4%上昇、ナスダック総合指数は同じく7.0%上昇、低迷を極めていたラッセル2000株価指数も7.6%上昇しました。一方、日銀はYCC(イールドカーブ・コントロール※)「再柔軟化」で長期金利の上限を骨抜きにしつつ、基本的な政策の枠組みは維持、デフレ脱却を支援する姿勢を明確にしています。国内10年債利回りは1日に0.97%まで上昇しましたが、米10年債利回りの低下から、1%水準を早々に越えていく懸念は大きく低下しました。また、今回のYCC柔軟化が、金融政策正常化(マイナス金利解除)に直結するものではないとの認識が広がり、国内株式マーケットに安心感を与えています。日銀金融政策決定会合後、ドル円相場が152円台まで円安に振れたことも、リスクオンへの転換を促しました。日経平均株価は10月30日の安値から先週末まで4.6%上昇、TOPIXも同じく4.5%上昇しています。

## 好調な出だしとなった国内企業決算

7-9月期の国内企業決算は極めて好調です。11月1日までにTOPIX採用企業(2、3月期決算)のうち、社数ベースで36%、時価総額ベースで44%が2023年度2Q決算発表を終えています。前年同期比4.2%増収、57.3%営業増益、46.0%経常増益、52.2%最終増益です。2Q利益サプライズは、ポジティブ(2Q実績がQUICKコンセンサス対比で+3%以上)が169社、ネガティブ(同-3%以下)が104社、サプライズ比率((ポジティブ-ネガティブ)/(ポジティブ+ネガティブ))が24%となっており、製造業でポジティブサプライズが目立っています。また、2023年度会社計画の修正は経常利益(若しくは税引前利益)の上方修正が166社、下方修正が71社となっており、通期会社予想は前年度比で売上高+3.6%、営業利益+25.3%、経常利益+20.9%、最終利益+15.4%となっています。

## 金融政策と企業業績を背景に日本株の優位性が高まると予想される

日銀金融政策決定会合と企業決算をこなして日本株が上昇するパターンは5月にも見られた現象です(日銀金融政策決定会合:4月28日)。4月第4週から6月第1週までの海外投資家による日本株の買越金額は現物と先物を合計して5兆円を越えています。この間、日経平均株価は約12%上昇しています(4月28日:28,856.44円、6月9日:32,265.17円)。今回も、日銀金融政策決定会合を波乱なく通過し、2Qの企業業績が想定以上に好調な状況は、海外投資家の日本株シフト第二段が始まる環境が整ったこととなります。12月末、今年の最高値(7月3日:33,753.33円)更新を見込んでいます。

## ～ワンポイント用語集～

※ イールドカーブ・コントロール・・・2016年9月の日銀金融政策決定会合で日銀が新たに導入した政策枠組み「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の柱の一つ。2016年1月から始めた短期金利のマイナス金利適用に加え、10年物国債の金利が概ね0%程度で推移するよう日銀が国債を買入れ、長短金利全体の動きをコントロールしていくこと。